

■香取秀真 金工(史)家・歌人。一念発起し金工の第一人者になり、工芸界の発展に中心となって尽力。

かとりほつま

佐賀の乱・・・1874＝ 千葉県印旛郡船穂村(印西市)で生まれる。本名秀治郎。

大久保暗殺・1878＝ 4歳：佐倉麻賀神社の宮司で叔父の郡司秀綱に引取られたが、父母を思い出して泣き続けたため、実家に戻り、

明治14年政変1881＝ 7歳：改めて郡司秀綱の養子となって、佐倉に住み、鹿山小学校に入学、

岩倉具視没・1883＝ 9歳：

内閣発足・・・1885＝11歳：突然、遊んでばかりいられないと自覚、

儒学者統豊徳について四書五経を、佐波丈夫について英語を学んだりして、

帝国憲法発布1889＝15歳：佐倉集成学校に進み、

足尾鉍毒始・1891＝17歳：養父に願い出て資金を用意して貰い、集成学校を中退して上京、東京美術学校を受験するも不合格となり、美術講習所に入って猛勉強、

大本教・・・1892＝18歳：1番の成績で合格し、東京美術学校に入学、当初彫刻家をめざしたが、授業で聞いた鑄金の技法に興味を抱き、大八洲学校でも学ぶ。

日清戦争始・1894＝20歳：

八幡製鉄始・1897＝23歳：香取家に復籍。卒業制作「古代神像」を提出して、東京美術学校鑄金本科を卒業、

子規句歌革新1898＝24歳：大旅館の娘と結婚。*美術協会展に「獅子置物」を出品して1等賞となる。

Bushidou・・・1899＝25歳：長男が誕生するも収入が殆どなく、妻が実家に帰ってしまったため、養祖母の世話を受ける。同校の助教の話があるも、内紛に嫌気して断り、研究科に進むと同時に、歌道を修むべく、正岡子規に入門。

パリ万国産化・1900＝26歳：パリ万国博覧会で銀賞を受ける。

田中正造直訴1901＝27歳：

日比谷公園・1903＝29歳：母校で鑄金史を講じ、

日露戦争始・1904＝30歳：彫金史も講じ始める。

日露戦争終・1905＝31歳：

韓国反日暴動1907＝33歳：東京勲業博覧会で「獅子鈕銅印」が2等賞銀牌を受ける。文展が開催されるも、工芸の出品が認められず、

アヲヲ創刊・1908＝34歳：同志と東京鑄金会を組織、伊藤左千夫らと{アララギ}創刊にも参加、

韓国併合・・・1910＝36歳：

明治天皇没・1912＝38歳：

大正政変・・・1913＝39歳：この年から農商務省の主催で工芸のみの農展始まり、審査員にもなるが、輸出品向けのデザインを目的としているため、工芸家の不満はますます大きくなるうち、

第一次大戦始1914＝40歳：「日本鑄工史稿」、

ベルサイユ条約・1919＝45歳：

原敬首相暗殺1921＝47歳：

ヨーロッパ人が日本の工芸品の美術的価値を高く評価するのに伴い、国内でも認識されるようになり、

治安維持法・1925＝51歳：農展が商工展となる。

日本時代始・1926＝52歳：津田信夫・板谷波山らと、日本工芸美術会を興して運動、

金融恐慌・・・1927＝53歳：養父が死去直前、*帝室博物館学芸員となり、帝展第4部(美術工芸)の創設に参画して審査員となる。

共産党事件・1928＝54歳：

世界恐慌・・・1929＝55歳：帝国美術院会員ならびに国宝保存会委員となる。

作品には香炉・花器・釜・梵鐘など古典的モチーフを引きつぎながら、豊かな技術を生かした品格の高いものが多い。東洋金工史の研究に大きな業績を挙げたことでも知られ、

満州事変・・・1931＝57歳：

五一五事件・1932＝58歳：「日本金工史」を刊行、

国際連盟脱退1933＝59歳：東京美術学校教授に就任、

帝人疑獄事件1934＝60歳：帝室技芸員に任命され、

二二六事件・1936＝62歳：初の歌集「天之真榊」を刊行。

日中戦争始・1937＝63歳：帝国芸術院会員となる。

日米開戦・・・1941＝67歳：*学術的著述「金工史談」を刊行、

創価学会検挙1943＝69歳：東京美術学校教授を退任、「続金工史談」を刊行。

敗戦・・・1945＝71歳：

新憲法公布・1946＝72歳：

新憲法施行・1947＝73歳：歌集「還暦以後」を刊行、

朝鮮戦争始・1950＝76歳：文化財専門審議会委員となる。

独立回復・・・1951＝77歳：

TV放送始・・・1953＝79歳：文化勲章をうけ、

自衛隊発足・1954＝80歳：*宮中歌会始の召人にもなったが、東京世田谷の自宅にて急性肺炎のため、没した。随筆集に「鞘祭」がある。